

岡山市中心部各地区の親子クラブの交流会「おやこでエコライフ」(岡山市など主催)が25日、岡山市北長瀬表町の岡山ドームで開かれ、大勢の親子連れでにぎわった。

塗り絵 折り紙 エコ体験

遊んで触れ合おう

親子クラブ交流会

岡山

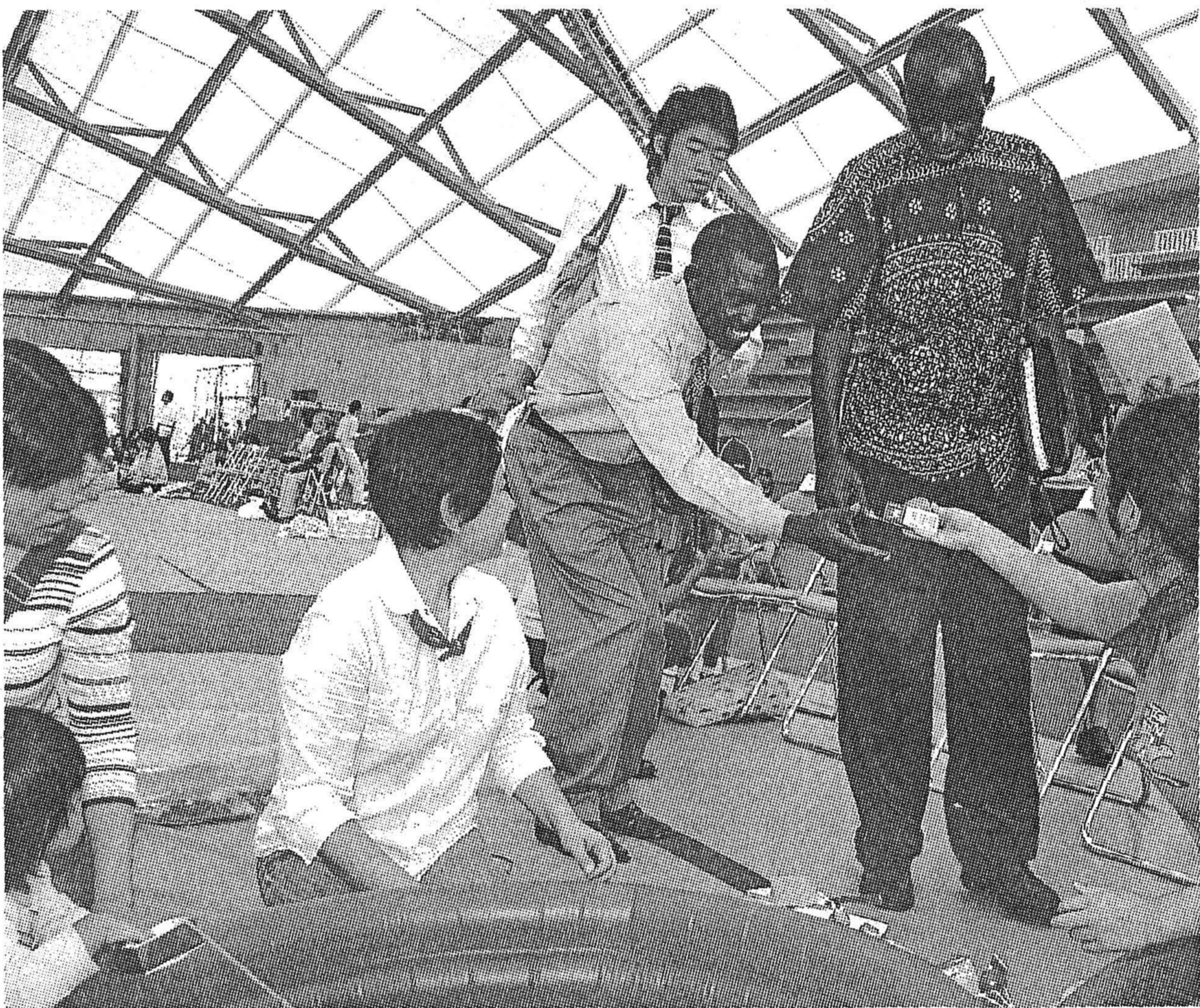
大元や三門など12地区でつくる岡市中心部プロックの交流会で、約250組の親子が参加。愛育委員の指導で昔ながらの遊びや、塗り絵、折り紙などに親子で興じ、ドーム内のあちこちで笑い声と歓声が上がっていた。

また、テーマの「エコライフ」に合わせて、廃油で作られたリサイクルせつけんや、ハイブリッドカーを展示。ふろしきの活用法や食の安全性を紹介するコーナーも設けられた。

に岡山市西古松西町はそれぞれ息子の真輔ちゃん(1)と達也ちゃん(1)を連れて参加。2人は「子育てはストレスがたまるので、お母さん同士でいろんな話ができてよかった。子どもも楽しんでみたいですね」と満足そうだった。

プロック全体の交流会は今回が4回目。同プロックの理事を務める熊谷洋子さん(33)は「さまざまな遊びや体験を通じて触れ合いの大切さを知り、地域全体で子育てに取り組み必要性を感じてほしい」と話している。

親子クラブの交流会を視察し、手作りおもちゃの説明を受けるコンドウエさん(左)とムクンプタさん(岡山ドーム)



「日本の取り組み素晴らしい」

ザンビアの研修員も

保健活動視察で来岡

アフリカ・ザンビア共和国の首都ルサカから研修員2人が21日に来岡し、県内各地を視察しながら保健行政を学んでいる。

2人は同国で保健衛生業務に従事するジョンボ・コンドゥエさん(35)と、ドナルド・ムクンプタさん(37)。国際協力機構(JICA)から委

託を受けたAMD Aの招きで来岡し、栄養教室や学校給食、3歳児の健康診断など、地域の保健活動を中心に視察している。

2人によれば、同国では衛生状態が悪く、コレラなどの伝染病が頻発。また貧困から学校へ子どもを通わせられない家庭も多く、公衆衛生への意識が国民になかなか浸透しないのが現状という。男性の5人に1人、女性では3人に1人がHIV(エイズウイルス)に感

染しているとする統計もある。それだけに2人は「ザンビアはインフラ整備が遅れている。日本の組織的な活動は素晴らしい」と感銘を受けた様子。25日には、岡山ドーム(岡山市北長瀬表町)で開かれた親子クラブの交流会を訪れ、参加者とともに

ゲームや昔ながらの遊びを楽しんだ。2人は30日に広島市の平和記念公園も訪問する予定で、来月4日に帰国する。「大切なのは国民一人ひとりの努力。学んだことを生かすため、帰国後はできることから取り組みを始めたい」と張り切っている。